

科目名	基礎看護学特講Ⅱ			分野・必選別・単位数	専門科目 (基礎看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎教授 新井直子 教授 砂見緩子					科目ナンバー	T2C102
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	臨床での自己の看護実践(行為)を言語化し、自己の看護技術のとらえ方を探り、看護という人間の営みを成り立たせている方法としての看護技術を検討する。より高度化・専門化する看護技術の意味を考え、効果的な看護実践方法と関連する課題を探索し、自己の研究課題を焦点化できるようにする。						
授業の到達目標	1.看護技術の本質および基礎的な技術の洗練過程を、具体例を通して分析することができる。 2.看護技術の科学的検証のあり方と展望を、自分の言葉で説明することができる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	新井直子 砂見緩子	教授 教授	科目概説 看護技術の本質および基礎的な技術の洗練過程を、具体例を通して分析することができる。 【キーワード】看護技術の定義、看護技術習得のためのプロセス、看護技術の原則、看護技術の評価			
	2	新井直子 砂見緩子	教授 教授	看護技術の本質および基礎的な技術の洗練過程を、具体例を通して分析することができる。(1) 【キーワード】技術、技術論、理論と実践、実践知、テクネ			
	3	新井直子 砂見緩子	教授 教授	看護技術の本質および基礎的な技術の洗練過程を、具体例を通して分析することができる。(2) 【キーワード】技術、技術論、理論と実践、実践知、テクネ			
	4	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(1) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	5	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(2) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	6	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(3) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	7	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(4) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	8	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(5) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	9	新井直子 砂見緩子	教授 教授	日常生活における環境と健康、および看護実践の効果に関するエビデンスを評価することができる。(6) 【キーワード】対象者、日常生活行動、健康、環境、看護技術			
	10	新井直子 砂見緩子	教授 教授	質の高い看護実践を保証・実現する看護師の的確な判断について評価することができる。(1) 【キーワード】思考過程、意思決定過程			
	11	新井直子 砂見緩子	教授 教授	質の高い看護実践を保証・実現する看護師の的確な判断について評価することができる。(2) 【キーワード】思考過程、意思決定過程			
	12	新井直子 砂見緩子	教授 教授	質の高い看護実践を保証・実現する看護師の的確な判断について評価することができる。(3) 【キーワード】思考過程、意思決定過程			
	13	新井直子 砂見緩子	教授 教授	質の高い看護実践を保証・実現する看護師の的確な判断について評価することができる。(4) 【キーワード】思考過程、意思決定過程			
	14	新井直子 砂見緩子	教授 教授	質の高い看護実践を保証・実現する看護師の的確な判断について評価することができる。(5) 【キーワード】思考過程、意思決定過程			
15	新井直子 砂見緩子	教授 教授	看護技術の検証方法および効果を総括し、看護技術に関する自己の研究課題を述べることができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストおよび関連文献の次回授業部分を事前に読み、課題意識を持って授業に臨むこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に定めない。授業の中で適宜紹介する。						
参考書	Carol R. Taylor, Carol Lillis et al.:Fundamentals of Nursing: The Art and Science of Nursing Care 8th edition. Lippincott Williams & Wilkins, 2010. Chinn, P. L., & Kramer, M. K.:Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing (8th Ed.). Elsevier Mosby, 2011.						
成績評価の方法および基準	プレゼンテーション70%(妥当性・適切性・資料の内容・発表の内容と方法)、レポート30%(論理性・一貫性・適切性)で評価する。						
その他履修上の注意事項	レポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行うので活用すること。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示しているので確認すること。						